

高齢者の安寧空間創製システムの概念

沢恒雄^{†1}

概要: 環境・社会・経済のトリレンマで人類の存亡に係る状況にある。トリレンマを緩解するための安寧空間創製システムを提唱した。応用として人類の「個」についての安寧空間創製のモデリング法を提案する。

キーワード: 高齢者安寧空間創製システム, 回想法

Outline of well-being space creation system for the elderly

TSUNEO SAWA^{†1}

Abstract: There is a situation where the existence of human beings is in a trilemma of environment, society, and economy. We propose a well-being space creation system to alleviate the trilemma. As an application, we propose a modeling method for creation of safe space for "individual" of human beings.

Keywords: Of the elderly well-being space creation system, reminiscence

1. 序章 [6][7][16]

人類 100 億人を養う地球資源はない。糸川英雄博士の組織工学研究所での成果である提言や環境哲学の視点からも客観的な予測である。しかし、ほとんどの国、種・部族、家庭、個人に至るまで具体的な行動に踏み出していない。十数年来、環境・社会・経済のトリレンマの緩解・艦戒を研究してきた。人類にとって核兵器廃絶の最重要課題以上の課題にも拘らず小手先の矮小な課題にすり替えた議論が国連等でされてきた。しかし、ほとんど成果は得られていない。付録

2. 安寧空間創成システムの計画と実績

安寧空間創成システム(WBSCS : Well-Being Space Creation System)の「個」と「集」の研究実績と今後の研究計画を表 1 に示した。WBSCS の基盤となるシステムは、GMAIS(Global Model base Architecture Information System)であり、思考支援や合意形成支援環境を提供するシステムである。GMAIS から WBSCS に至る研究実績を付録に添付した

3. 環境・社会・経済のトリレンマの緩解

3.1 WBSCS の概要 [1][2]

課題:すでに人類 100 億人を養う地球資源は無い。

緩解策: 解決法はなく、緩解策として先延ばし策のみ

二大戦略: 生物人類温存戦略と言語文化温存戦略

二大対策: 人口増加率逓減と工業化率逓減で人類滅亡の時

期を先送りする対策とした。

目標・目的: 人類の存亡が課題であり、「生物人類温存」と「言語文化温存」が目標であり、目的である。WBSCS システムの実態は、モデルが構成要素である。

方法・方略: 環境・社会・経済のトリレンマ現象が課題の源泉である。そこで日本の良質な社会倫理観を日本・日本語・日本文化を一体としてモデルベースシステムを構築し、デジタル・ディプロマシーで世界に発信・啓蒙・理解・認知・政策実践指導と教育によりトリレンマを緩解させうる。

3.2 WBSCS の管理運用

「個⇌人間・生物」や「種⇌国・人種・文化・言語」の連鎖の断裂は、進化し得ない「種」の崩壊を招く可能性が大きい。WBSCS の管理機能は、知財の収集・蓄積・管理・発信・実践の機能を持ち世界日本モデルを COE として IT Diplomacy で世界に発信する。世界日本学モデルの伝達から実践までは、人、家族、組織、部族、種、国、世界に及ぶ。安寧空間構築のための目標・目的である二大戦略および二大対策の人口増加率逓減と成長率・工業化率逓減を活動実績から評価する。その結果、地球資源との対比で二大対策の適正値を予測し、次サイクルの施策を世界的に反映させる。PDCA サイクルを継続して地球資源消費量が人類滅亡の破断点を超えて負のスパイラルに落ち込まないように人類の温存を謀る。

^{†1} 遊工学研究所
YUUKOUGAKU Institute

表1 安寧空間創製システムの研究計画書
Table 1 research plan of well-being space creation system

NO	研究項目	個集別	先行研究の結論	研究実績と新規研究の範囲
1	「安寧空間創成システム」の概念により世界システムに最適化された「幸福度」を導入して施策実践する。具体化的方法は5～の研究	個	「幸福度」の提唱としては論文1編、関連論文は業績を参照：付録に添付	「世界日本学」を提唱した。日本・日本語・日本文化統合化して基準単位モデルとする。モデルベースを知財化して世界にデジタル・ディプロマシーを謀る。
2	「個」の包括的安寧空間のモデルベース・システムの概念化の研究		当研究の核になる。	基本的には、核兵器銃火器・飢餓・麻薬の完全廃絶。社会倫理的には「盗らない・嘘つかない・他人に迷惑をかけない」の3戒を新教育勅語版としてディプロマシー学会に発表する。ユネスコの1400万ドル用途不明を裁けぬ国連は廃止すべき。
3	社会哲学からの「個」と「集」の幸福論		着手段階で研究の核になる。	論文1編、各種の個人と組織の評価法を統合的評価法として個と集の「生き方・活き方・逝き方」及びPDCAさいくるの基準となる「幸福度」を確定する方略の研究（AI技法・GTA）
4	「個」の心身健康統合化による「安寧空間創成」の方法		新規の研究	篠浦伸禎博士の篠浦塾会員でブレインカウンセラーとして脳の使い方を応用する。具体的には、回想法による認知症予備群と認知症のライフログをストリートしてモデルベース化を謀る。その応用で安寧を獲得する。
5	経済哲学からの依存症減衰法による所要資源の最小化の方略	集	数年前から研究	まとめを行う。統括的心身健康の維持方法の研究
6	緒論；環境・社会・経済のトリレンマによる人類・100億人の滅亡		約15年の集積あり 提出した修士論文	まとめを行う。人類100億人を賄える地球資源は絶対的に不足する。特に食糧・水・環境異変・・・
7	環境哲学論的な視点からのトリレンマ緩解法		約15年の集積あり	まとめを行う。
8	安寧空間創製システムの概要「個（人・その他生物）」と「集（人類・家・組織・部族・国家）」の安寧の方略（生き・活き・逝き）様を深耕的に研究する		数年前から研究	実践に着手した対象で「個」と「集」の統合化研究を基盤とする。
9	「世界日本学」の提唱の意味は、日本の事実による近現代史の積み上げと整理して国体・主権・教の再現を現実の歴史とセットで基準とすることを前提とする。		モデルベースの基盤に日本モデル「Nモデル」を設定するための前提	人類が他の「種」とことなる唯一の思考・言語・の優位性を生かして、トリレンマ緩解（艦戒）により「生物・人類温存」と「言語・文化温存」を目標とした活動を行える世界とする。グローバル・ヒストリーとして公表すべきである。
10	近現代史の事実に基づく従来の歴史是正モデル（幸福の基準）		人類100億人を賄える地球資源は絶対的に不足する。特に食糧・水・環境異変・・・	国体・主権・教育の回復を行う。世界日本モデルの前提とする。XXファーストである必要はないが、原状ですら経済大国、文化大国更に軍事大国であることの認識から始まる。中国・アメリカ・アフリカの将来のリーダー育成をNモデルで実践する。

表 2 日本心身健康科学会の総括
Table 2 Summary of the Japan Society of Health and Health Sciences

	カテゴリー (沢)	細目のKW (沢)	学術集会	論文	シンポジウム	生涯学習	合計	%
1	哲学, 宗教	哲学関連	0	2	7	0	9	3%
2	脳	脳科学,	2	2	5	0	9	3%
3	身体・ハード	運動, 感覚, 知覚	8	13	2	0	23	8%
4	身体・ソフト	触合い, 絆, 認知	3	8	5	0	16	5%
5	食物	栄養, ホルモン	2	2	6	0	10	3%
6	心	幸福, ストレス,	8	26	11	0	45	15%
7	心身, 生命	健康, 病気, 死(2)	10	22	11	0	43	14%
8	学会	関連学会	3	3	0	0	6	2%
9	科学・技術	Robot, 推論	1	12	11	0	24	8%
10	福祉, 労働	福祉	1	8	7	0	16	5%
11	ホメオスタシス	関連学会	1	2	0	0	3	1%
12	安寧空間	自然, 文化	7	11	5	0	23	8%
13	医療	ライフサイクル, QOL	1	19	4	0	24	8%
14	生涯学習	生涯学習	0	0	3	16	19	6%
15	学術会議	集会, セミナー, シンポジウム	26	2	0	0	28	9%
合計			73	132	77	16	298	100%

4. 心身健康学の視点での WBSCS [1]~[4][15]

心身健康学の研究は、日本心身健康科学会でなされている。小さな学会の特徴であろうか、濃密な議論と討議が開催されている。表2に公開されている範囲内で本誌の目次すべての項目を総括した。表2に示したが、研究の確たる心身の健康に関する論文が多い。高齢者に関わる項目は、安寧空間、医療関連と生涯学習の3カテゴリーで22%ほどである。脳科学や社会倫理に関わるテーマの論文が少ないようであるが、現実に即したテーマが喫緊の課題であろうが、情報システム援用機能を活用した体制が、今後の高齢者の急増に対応採れなくなることを危惧する。

団塊の世代が高齢者群に雪崩現象的に累積されると、社会システムの激変を招く。稿者も喜寿を迎えた1研究員であるが、健康を支える運動という面からみて80歳代でも過激な運動をする爺婆が多いようだ。

テレビの鑑賞だけで過ごす高齢者は、早晩認知症に脱落して周辺に大迷惑をまき散らす。枯れるように老衰で逝きたいと願う高齢者多い。特に日本人の特徴からして他人に

迷惑をかけたくないという社会倫理観が強く、辛抱をしすぎて独居死と自殺が少なくない。国の施策として医療関係の経費が膨大になるというマスコミに報道も少なくない。何もしなくて、原状を変えたくないという心情では当然の結果であろう。爺婆対策として、集団生活を都心部に集中化して予防保全に予算投入を謀るべきである。

年金の受給開始も72歳ぐらいまでに設定変更するのも良い。健康とは、自分の体を保持するために日に3度の食事と排泄が可能であれば、アチコチの多少の不具合は、当然として受け入れられる。新たな日本式高齢者健康管理法として今後、隣接の人口が1桁多い国などへ仕組み自体を指導でき、ビジネス転用も副産物として見込まれる。

そこで、人類の滅亡を先延ばしする安寧空間創製システムWBSCSを、個人用に、特に爺婆用に必要であると判断して「個」と「集」の安寧空間創製システムの必要性を提案した。

5. 回想法モデルを WBCS 運用で認知力改善 [8]

回想法は、各種の提案がなされている。[8-11]に示す。

5.1 回想法 [10][11]

回想法には、ライフレビューとレミニッセンスがある。

ライフレビューは、自身のライフヒストリーを系統的に語ることで過去の人生を整理してその意味を探求する目的を持つ。そのことで人生の肯定的な再評価、主観的な幸福感や自尊感情の恒常、抑うつ感の軽減などがもたらされると考えられる。

レミニッセンスは、過去の思い出や記憶を肯定的に利用し、情緒の安定や質の高い対人交流を促すものである。効果としては、過去経験の想起を通して、自尊感情や幸福感の向上、不安や抑うつ感の軽減、罪の意識の軽減、自我同一性の感覚の強化、ストレス対処性の促進などをもたらすことがあげられる。

5.2 共創法：[9]

回想法をベースにして提案された方法である。コミュニケーションの難しさとして話す力、聞く力、両者のバランスをとる力と交流する場を作る力の4つ挙げている。このような点から回想法を実践しつつ共創法を提唱した。定義付として2つのルールを挙げている。

- (1) 予め設定されたテーマに沿って、写真やイラスト、時に音楽や実物等の素材と共に話題を参加者が持ち寄る。
- (2) 順序と持ち時間を決め、話の時間と質問の時間とを設けて、話し手の写真または素材を交互に映し出しながら、話し手は話すこと、聞き手は聞くことに集中し、聞き手と話し手の役割を明示的に切り替え、参加者に均等に、「話す」、「聞く」、「質問する」、「答える」の4種類の機会を与えること。

回想法と共創法の相違点は、目的では、回想法が、高齢者の自我の統合と社会的交流の促進、競争法は、高齢者の社会的交流の促進による認知機能維持向上としている。

定義と時間軸での相違は、回想法は、テーマと過去を対象にする。共創法は、形式により、過去を含み現在から未来までを対象にしている。

5.3 高齢者 WBCS 法 [12][13]

世界日本モデルをベースにした安寧空間創製システムを提唱してきた。国・諸組織の現実、環境・社会・経済のトリレンマを解決する努力もなく、成り行きまかせの政策が継続している。人類 100 億人は、もはや絶対的な資源不足である。GDP を環境 (CO2 発生量) にすり替え売買の対象にした制度など何の解決にもならない。直接的な工業化率と人口増加率の通減しか、滅亡を抑制する方法はない。この仮説から WBCS を導出し提唱した。

人間は、考えるという道具を手にした時から生きることが悩まねばならない特性を身に着けてしまった。価値観を転換し、人類の滅亡の時期を可能な限り先延ばしする方略を提案したが、実践に持ち込むのは、本来は政治の分担で、現在の資金援助だけの政治では実現不可能である。個人でも可能な事を立証したい。

脳科学の研究は、「心」を対象に向けている。思考の大きなツールとなりうるが、緒に就いたばかりである。幸福度のまとめ方などに貢献できることを期待したい。

思想や思考の原点としての哲学が、この数百年の科学技術の進展で学問の確たる位置が置換された。哲学の復権を含めて特に社会倫理の在り方の研究は、影が薄い。復権を指向し各領域に哲学を据える姿勢も必要である。応用哲学の提唱がされているが幸福論の統合化も必須であり今後の課題とする。

既に組織を対象にした安寧空間創製システムの概念を提唱している。いわゆる「集」を対象にしているが、個人の高齢者を対象にした「高齢者安寧空間創製システム」を提唱する。認知力が劣化して介護を必要とした人間に対し、認知力の回復を期待する処方箋として回想法が提案され実践されている。しかし、介護や他人の手を借りないと日常生活の環境で迷惑をかける老人の面倒をみている組織が急激に増加するとされている。

肉体の物理的な機能低下だけではなく、自己を正常に制御できなくなっている人々を、少しでも安寧な日常生活を営めるような生活空間を確保できる目論見での高齢者安寧空間創製システムである。

WBCS の高齢者版としてのシステム概念図を図 1 に示した。回想法や競争法に加え傾聴法などもあり、方法論として統合化し、可能な限り映像を撮りセットとしての単位で評価をする。改善点に加え失敗例も含めてモデルとして基本単位をログする。継続的な実践で効果があったか、悪くなった事例などもログを採る。そして評価の時点で、新たな方法論や実践手順などの知見を獲得する。その知恵を次サイクルの実践計画に反映させていく方式が基本的な管理運用法である。

また、メンタルな劣化を改善するには、脳科学の最近の成果を生かした施策を研究していく。

6. 結言

安寧空間を保持していく基本には、無駄使いをしない、過剰な依存症を抑止する、餓死者の出ないような人口に抑え、どこへでも工業化を志向しない。一帯一路は、トリレンマ緩和と真逆の政策である。実践あるのみで、自己のシナリオやモデルをまず開発してから認知法予防と介護労力・費用を削減するための利活用を試みる。

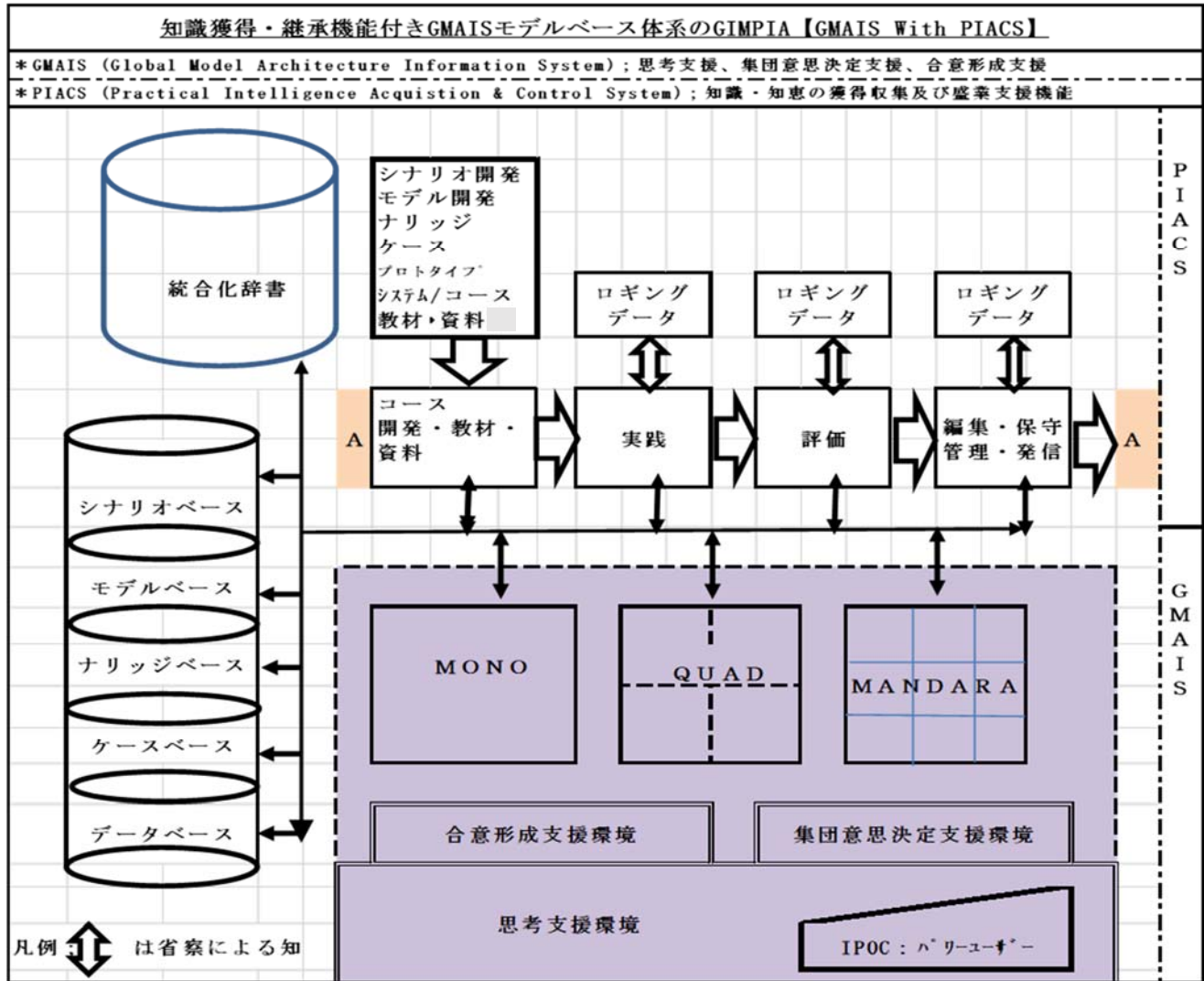


図 1 高齢者安寧空間創製システムの概要

Figure 1 The configuration of template file

参考文献

[1] 沢恒雄: 二大モデルによるトリレンマの艦戒(緩解)の研究, 第 14 回情報科学技術フォーラム(FIT2015), 4Q-6

[2] 沢恒雄: 世界日本学の提唱, 第 14 回情報科学技術フォーラム (FIT2015), 4Q-7

[3] 沢恒雄: 世界日本学モデルベースシステムによる安寧空間構築の研究, 情報処理学会 MPS 研究会, 2016

[4] 沢恒雄: 世界日本学による安寧空間創製の研究 (安寧空間創製システム:WBSC の研究), 第 15 回情報科学技術フォーラム (FIT2016), N-012

[5] 山谷精志: 政策評価, ミネルヴァ書房, P218

[6] 糸川英夫, 人類生存の大法則, 徳間書店, 1995,

[7] 松井孝則, 地球倫理へ, 岩波書店, 1995

[8] 回想法, ライフレビュー研究会, 回想法ハンドブック, 2005

[9] 大武美保子, 介護に役立つ共創法, 中央法規, 2012

[10] 野村豊子訳: バーバラ・K・ハイト/バレット・S・ハイト, ライフレビュー入門, ミレルヴァ書房, 2016

[11] 今野義孝, 吉川延代, 高齢者の回想に及ぼす動作法の効果—過去の「想起様式」と懐かしさの「体験型」との関係—, 「人間科学研究」文教大学第 33 号, 2011, pp. 185-196

[12] 理化学研究所, 脳科学センター編, 脳科学の教科書, ところ編, 2013, P.225

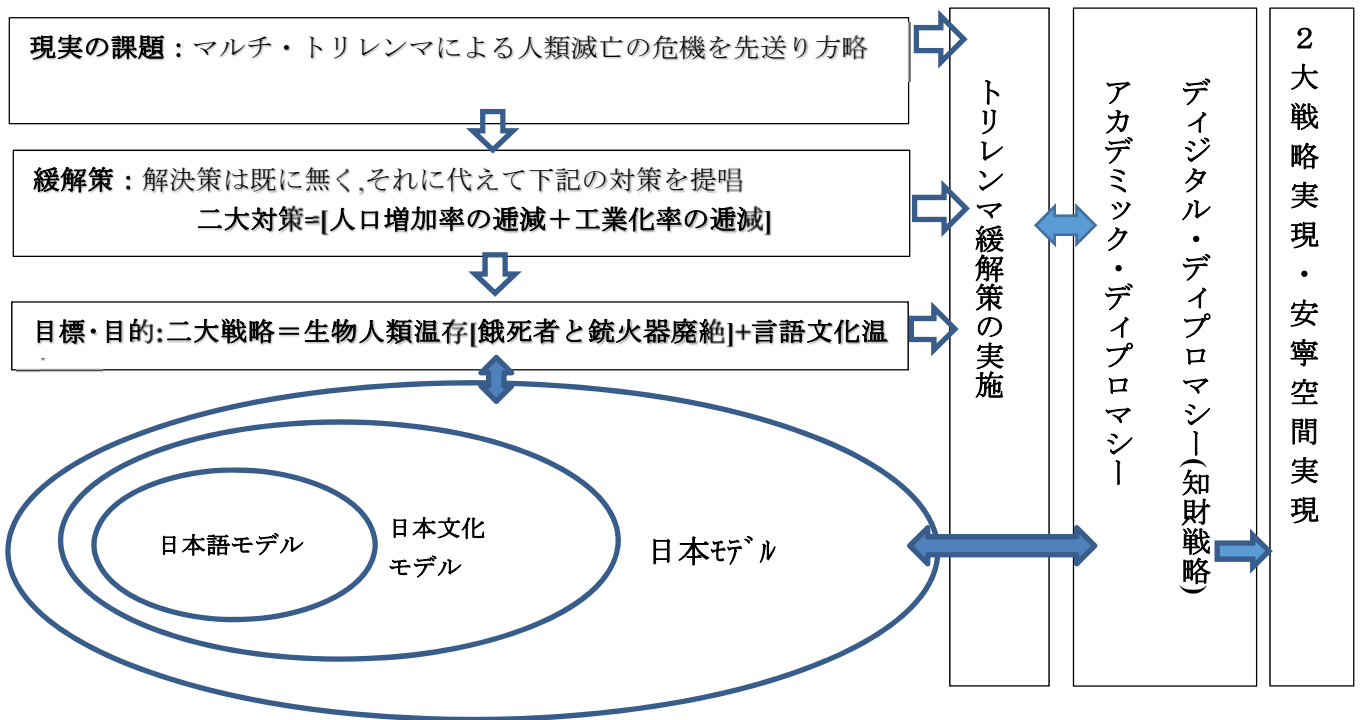
[13] 篠浦伸禎, 人に向かわず天に向かえ, 脳外科最前線の臨床でわかった「人間学」の効用, 小学館新書, 209, p.253

[14] 沢恒雄, 和多田作一郎, 知識時代の経営情報システム論, 城桃書房, 1977, PP.199-252

[15] 枝廣順子, 小田理一郎訳: ドネラ・H・メドウズ, 世界はシステムで動く, 英治出版, 2015, p.357

[16] 田中一, 未来への仮説, 1990, 培風館, p.242

付録1 世界日本学モデルによる安寧空間創製システムの概念図



世界日本学モデル=日本モデル+日本語モデル+日本文化モデル≡「足るを知る」,「良質な社会倫理感」

管理・運用;実践・運用管理・施策策定支援⇒安寧空間創成システム

WBSCS【GMPiA 概念の応用モデルベース】 ⇔ 知財資源と知財資産による知財戦略:収集・編集・管理・発信・理解・認識・政策化と実践・評価

付録2 WBSCSの概念構築に関わる先行研究の論文

年	No.	内 容 概念,機能概要,トリレンマ緩解の 要素群の位置付けの根拠 ②は,発表学会を示す	WBSCSの概念・諸要素						
			戦略 方略	WBSCS 概念	要 素 資 源	応用 日 本 語	応 用 汎 用	応用 評価	実態 高齢者
		①情報処理学会 15 ②電子情報通信学会 6 ③人工知能学会 3 ④情報知識学会 1 ⑤経営情報学会 4 ⑥日本教育工学会 1 ⑦ヒューマンインター フェース学会 2 ⑧修士論文・紀要等 24	人 類・ 生物 と言 語・ 文化 の消 滅を 抑制 する 方略	安寧 空間 創製 システ ムの 基幹 モデ ルの 概念	知 財・ 情報 資 源・ 資産	汎用 専門 日本 語教 育シス テムの 管理・ 運用 概念	汎用 モデ ルベ ース 構築 概念 =知 財管 理	構想法 と脳科 学を応 用した 個人の 修正の 資産と なるモ デル	安寧空 間創製 システム WBSCS
1988	1	MBS;モデルベース・シェル構成と適用範囲 ①			1		1	1	1
1989	2	MB;モデル・ビルダー応用例知的文書処理システム ①			1		1	1	1
1989	3	総合的モデル・ビルダーの知識処理技術背景③			1		1	1	1

			戦略	概念	要素	日本語	応用	評価	高齢者
1989	4	総合的モデル・ビルダーの適用業務例 ③	1		1		1	1	1
1990	5	知識社会における知的資産の創製と管理の研究 GMA 概念による情報システム GMAIS⑧			1		1	1	1
1990	6	グローバル・モデルビルダー応用事例：仮想店舗管理システム ①			1		1		
1992	7	MMM(マルチ・モーダル・モデル)の概要：組織における知的資産の蓄積と ESSを指向 ①			1		1	1	1
1996	8	GMB(Global Model Architecture)の概念と機能：グランド・チャレンジとし てモデリング概念,GMA の提案 ①			1		1	1	1
1999	9	異分野統合型学部の情報教育・マルチリテラシー教育③			1		1	1	1
1999	10	GMA (Global Model Architecture)概念による思考支援環境：GMAIS による 意思決定環境の質的改善 ②			1		1	1	1
1999	11	知識社会における情報教育・マルチリテラシー教育の概要：先進的学部・学科 における情報教育の事例 ①			1		1		
2000	12	GMA(Global Model Architecture)概念モデルによるマルチリテラシー教育の 研究③			1		1	1	1
2000	13	思考支援の研究 ①, ⑧			1		1	1	1
2000	14	GMA(Global Model Architecture)概念モデルによるマルチリテラシー教育の 研究 ③			1		1	1	1
2001	15	知識・知恵・知謀社会における新組織：第4セクター方式:その1 ⑧			1		1	1	1
2001	16	文化経済立国論(構想編) ⑧	1	1	1		1	1	1
2002	17	文化経済立国論：環境経営システム編(中田實教授・田上光大教授退職記念 号)⑧		1	1		1	1	1
2003	18	戦略的地球環境経営システムの研究 ⑧		1	1		1	1	1
2004	19	GMIS による文化言語温存モデル構築法の研究 ⑧			1		1	1	1
2004	20	戦略的地球環境経営システム論考(1/2) ⑧	1		1		1	1	1
2004	21	第4セクター方式組織の形態論考：比較制度分析・PPP・EA 等の視点から考 察 ⑧			1		1		
2004	22	文化言語温存モデルの構想 ⑧		1	1		1		
2005	23	GMAIS による統合化 CSR 管理システム(TCMS)⑧		1	1		1	1	1
2005	24	戦略的地球環境経営システム論考(続 2/2) ⑧	1	1	1		1	1	1
2005	25	0-07 GMAIS による戦略的地球環境経営システム(SEMS)の研究(0分野:情報シ ステム)F I T⑧	1	1	1		1	1	1
2006	26	GMAIS におけるモデル・シナリオベースの研究 ⑧	1		1		1	1	1
2007	27	GMAIS による文明・グローバルコミュニティの危機回避モデルの提言 ⑧	1	1	1		1	1	1
2007	28	GMAIS による環境・社会・経済トリレンマ緩解論 ⑧	1	1	1		1	1	1
2008	29	デジタル・フォレンジックの定着法:GMAIS による環境・社会・経済のトリレ ンマの緩解法(その1)	1		1		1		
2008	30	GMA I S による安心・安全構想 ⑧	1	1	1		1	1	1
2010	31	GMAIS による環境・社会・経済トリレンマ緩解論 ⑤	1	1	1		1	1	1
2012	32	日本語教育資源・資産の総合的管理システムの概念：GMAIS による統合的 LMS&拡張 CALL ⑥		1	1	1	1		
2012	33	GMAIS による日本語ビジネス教育の教授法(第3回集合知シンポジウム) ①	1	1	1		1		
2012	34	識字のユニバーサルデザイン：GMAIS 応用の識字システム②	1	1	1	1	1		
2013	35	経営日本語教育システム —GMAIS による組織学習— ①		1	1	1	1	1	1
201	36	GMAIS 概念モデルによる「実践知」獲得システム ④	1	1	1	1	1	1	1

2013	37	経営日本語教育における実践知獲得モデル⑦		1	1	1	1		
2013	38	GMAIS 応用の経営日本語教育システムの概念:最重要政策の言語政策 ⑦	1	1	1	1	1		
2013	39	経営日本語教育における実践知獲得モデルの概年⑤	1	1	1	1	1		
2013	40	経営日本語教育における実践知獲得モデルの概念⑤	1	1	1	1	1		
2013	41	経営日本語教育システム ーGMAIS による組織学習ー ①	1	1	1	1	1		
2014	42	GMAPIA による組織ディスコースの研究 ①	1	1	1	1	1	1	1
2014	43	経営日本語教育システムの研究 ⑤	1	1	1	1	1		
2015	44	GMPiA による知識・知恵・知謀の「協働知」獲得・継承の研究②		1	1		1	1	1
2015	45	経営日本語教育システムの概要 (言語理解とコミュニケーション) ②		1			1		
2015	46	経営日本語教育システムの概要 (思考と言語) ②		1			1		
2015	47	0-063 大モデルによるマルチ・トリレンマ艦戒(緩解)の研究 FIT ①	1	1	1	1	1	1	1
2015	48	2大モデルによるマルチトリレンマ艦戒研究 FIT③	1	1	1	1	1	1	1
2015	49	総合思考支援システム GMPiA 応用の協働時における省察の研究 ②	1	1	1	1	1	1	1
2015	50	0-06 「世界日本学」の提案(0分野:情報システム,一般論文) FIT①	1	1	1	1	1	1	1
2017	51	安寧空間創製システムシステムにおける包括的評価システム ①	1	1	1	1	1	1	
1971	52	フェールセーフ論理方式の研究 修士論文 ⑧	1	1	1	1	1	1	1
1992	53	思考支援システムに関する研究ー企業情報システム構築法ー 修士論文 ⑧	1	1	1	1	1	1	1
2003	54	戦略的環境マネジメントシステムの研究 修士論文 ⑧	1	1	1	1	1	1	1
2013	55	規範モデルと経営日本語教育システムの開発と実践 修士論文 ⑧	1	1	1	1	1	1	1
件 数			28	35	53	20	55	39	38

戦略;方略人類・生物と言語・文化の消滅を抑制する方略	WBSCS 概念;安寧空間創製システムの基幹モデルの概念	要素資源;知財・情報/資源・資産	応用日本語;汎用専門日本語教育システムの管理・運用概念	応用;汎用モデルベース構築概念=知財管理	評価;構想法と脳科学を応用した個人の修正の資産モデル	高齢者;安寧空間創製システム WBSCS
----------------------------	------------------------------	------------------	-----------------------------	----------------------	----------------------------	----------------------

録3 世界日本学【日本・日本語・日本語】モデルベースの概要 【やっどグローバル・ヒストリーが研究対象に】

層	主要タイトル	内 容 ; 源典や説明事項	記 事 ; 方法や源典
日本文化	文化研究の知財 LOD	総研大に累積している知財など	デジタル・ディプロマシー
	源氏物語, 和歌集 LOD	万葉集などの超長期のロングセラー 廉価版の NGO 的な日本文化の広報活動	原本, 現代語版 デジタル・ディプロマシー
日本語	汎用専門日本語教育システム	総合的な辞書体系を具備。用語辞書, メタ辞書	分類語彙
	経営日本語教育システム LOD	基幹モデルの応用で汎用専門教育システムへ拡張 日本語は言霊であり, 言語帝国主義を排除する	沢恒雄が開発したシステム デジタル・ディプロマシー
日本	古代から明治初期までの歴史	日本二千六百年史: 大川周明 日本の魂, 主権, 国體や万世一系の歴史まで	縄文文化から自然風土と海に育まれた文化
	近現代の歴史 1	国破れてマッカーサー; 西鋭夫, フーバー大統領回想録等, 公文書公開資料で事実を把握して総括	回想録では日米戦争の全責任は狂人, ルーズベルトである。
	近現代の歴史 2 LOD	日本の魂・主権・国體を回復, 敗戦後の脱自虐史観	デジタル・ディプロマシー
	その他 (主権・国體・魂の回復) 歴史主体に国體, 主権の総括を行う。	日本の良質な倫理や蓄積された先人の遺産 【伝説から連続と続く歴史・日本の魂・国體 国體の本義 呉 PASS 出版	総合的な大和の回復を 10 年程度かけて実践し, 後世に託すことが最重要である。
安寧空間創製システム(WBSCS) ; GMPiA で定期的に評価の予測と結果の監査を提供し, 政策・施策化へ誘導・勸告を実施			